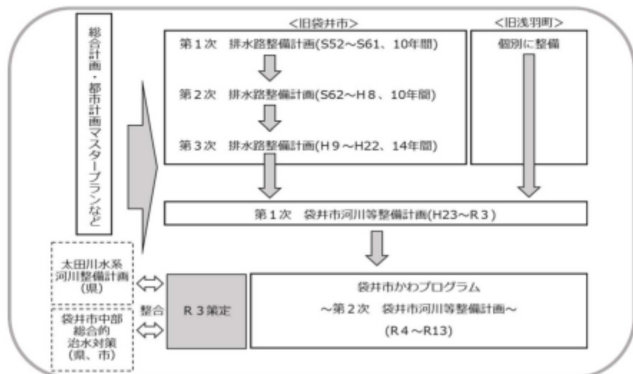


2 計画の位置付け

旧袋井市では、根幹的な河川・排水路の整備目標を5年(56.9mm/時間)～7年(60.2mm/時間)の確率規模の雨量で整備する「第1次排水路整備計画(S52～S61)」を策定し、その後も概ね10年ごとに整備計画を第2次、第3次へと計画を定め、整備を進めてきました。また、旧浅羽町では、特に整備計画を策定していませんが、土地利用や浸水被害状況に対応して、東部排水路など整備が進められてきました。そして、旧袋井市と旧浅羽町の合併後の平成23年9月には、従来の「河川」、「排水路」に「調整池」、「校庭貯留施設」等の流出抑制対策施設を加えた「袋井市河川等整備計画」を策定し、現在、整備に取り組んでいます。

新たな整備計画では、上位計画である「袋井市総合計画」が掲げる「安全・安心に暮らせるまち」の実現に向け、今後10年間で取り組む河川・排水路や雨水貯留施設などの整備方針を示すものです。また、わかりやすく親しみやすい計画とするため、名称を「袋井市かわプログラム」(袋井市河川等整備10箇年計画)に変更します。

なお、本プログラムは放流先河川の整備状況の影響が大きいことから、静岡県が管理する太田川などの河川改修計画と整合を図るとともに、現在取り組んでいます「袋井市中部総合的治水対策」とも整合を図っております。



5 施設の整備状況

(1) 河川・排水路

令和2年度末時点の河川・排水路の整備率(整備済延長距離/全体計画延長距離)は92%で、宇刈川、原野谷川、小笠沢川、鳥羽野、前川の5排水区は、整備水準である5年確率規模(56.9mm/時間)の整備が完了しています。

表-2.3 河川・排水路の整備状況(令和2年度末)

排水区名	面積 (ha)	全体計画※1		令和2年度末時点の整備状況					
				整備状況			未整備状況		
		路線数	延長(m) (A)	路線数	延長(m) (B)	整備率(%) B/A	路線数	延長(m) (C)	未整備率(%) C/A
敷地川	1,239	11	7,333	10	6,698	91	1	635	9
宇刈川	882	12	10,380	12	10,380	100	0	0	0
蟹田川	1,526	40	39,769	36	35,758	90	4	4,011	10
沖之川	1,049	23	22,827	19	19,948	87	4	2,879	13
田町	74	10	3,370	8	2,100	62	2	1,270	38
広岡川	244	10	9,610	9	9,260	96	1	350	4
原野谷川	473	6	5,800	6	5,800	100	0	0	0
秋田川	192	16	6,915	9	4,254	62	7	2,661	38
小笠沢川	1,106	6	3,942	6	3,942	100	0	0	0
弁財天川	2,866	22	27,087	21	26,997	99	1	90	1
鳥羽野	302	1	4,655	1	4,655	100	0	0	0
前川	889	6	8,780	6	8,780	100	0	0	0
合計	10,842	163	150,468	143	138,572	92	20	11,896	8

全体計画※1：第1次河川等整備計画(H23年度策定)で示した施設を基本に、その後の整備・測量等に基づき、路線数や延長を修正。

4 浸水被害の状況

(1) 家屋浸水戸数

近年、河川堤防が決壊するような大規模な外水氾濫は発生していませんが、気候変動による降雨量の増加、放流先河川の水位上昇により流域内に降った雨が排水できないこと、河川や排水路の流下能力不足、宅地化の進行等、様々な要因による内水氾濫がほぼ毎年発生しています。平成10年からの浸水回数は20回、家屋浸水戸数の合計は642戸であり、このうち、蟹田川排水区、沖之川排水区、秋田川排水区の家屋浸水戸数は約80%を占めます。

最大の浸水被害が発生したのは平成16年11月11～12日(前線：家屋浸水戸数297戸)であり、次に平成10年9月23～24日(前線：家屋浸水戸数130戸)、令和元年10月12日(台風19号：家屋浸水戸数61戸)と続きます。

表-2.2 袋井市の浸水被害実績（平成10年以降）

洪水名	降雨要因	市内観測地点最大雨量		浸水被害（家屋浸水戸数）												
		時間	累計	市内全域	宇刈川	蟹田川	沖之川	秋田川	原野谷川	小笠沢川	井財天川	鳥羽野				
(参考) S49.7.7	七夕豪雨	22.0	73.3	283												
H10.9.15-16	台風5号	32.5	158.5	22			22									
H10.9.21-22	台風7号	23.5	62.5	2			2									
H10.9.23-24	前線	55.0	211.0	130	3	9	40	29	6		41	2				
H12.6.28	前線	35.0	144.5	2			2									
H13.9.9-11	台風15号	21.0	201.0	2			2									
H15.5.31-6.1	台風4号	24.0	99.0	1			1									
H16.9.4-5	前線	68.0	109.0	12				12								
H16.10.8-9	台風22号	28.0	200.0	7			7									
H16.11.11-12	前線	76.0	264.0	297	8	89	44	81	7	1	66	1				
H17.7.9	前線	36.0	116.5	11			2	9								
H17.9.5	台風14号	52.0	105.0	5			1	4								
H24.8.14	前線	75.0	260.0	31	7		23	1								
H25.4.6-7	前線	50.0	157.5	2			2									
H26.10.5-6	台風18号	63.0	337.0	29	1		22	3	3							
H27.9.8-9	台風18号	43.0	238.5	2	1		1									
H29.6.21	前線	56.5	209.0	3	1		2									
H29.10.22-23	台風21号	41.5	195.5	1	1											
H29.10.29	台風22号	33.5	120.5	3	1		2									
R1.7.22-23	前線	92.0	168.5	19	2	13		2	1							1
R1.10.12	台風19号	45.0	348.5	61			12	46	3							
	合計			642	25	111	187	187	20	1	107	4				

平成 10 年以降で浸水被害が最も大きかった平成 16 年 11 月 11～12 日(前線：図-2.6)は、他の 2 降雨と比べると短時間で降雨量が多く、時間最大雨量は 76mm(20 年確率降雨)です。次に浸水被害が大きい平成 10 年 9 月 23～24 日(前線：図-2.5)は、時間最大雨量 55mm(4 年確率降雨)、令和元年 10 月 12 日(台風 19 号：図-2.7)は他の 2 降雨より降雨時間が長く、時間最大雨量は 45mm(2 年確率降雨以下)です。

令和元年 10 月 12 日(台風 19 号のように、時間最大雨量は 45mm(2 年確率降雨以下)と上述の 2 降雨より小さくても、長時間に渡る降雨(348.5mm/27 時間)が継続したことで大規模な浸水被害が発生しています。

蟹田川排水区（重点排水区）の整備計画

排水区の現状（排水区面積：1,526ha）

【位置・地形、土地利用の現状】

- JR袋井駅の西側に位置し、排水区中部には東名高速道路が、また南部には東海道線及び東海道新幹線が東西に横断する、南北に長い排水区です。
- 標高は北部が15m、南部の水田地帯が5m程度で平坦な地形となっていますが、南部の(準)松橋川下流部は、標高が低く窪地地形となっています。
- 東名高速道路の開通に伴い、工場の進出や宅地開発など市街化が進展しました。流域には全体的に水田が残っています。



【排水施設の整備状況】

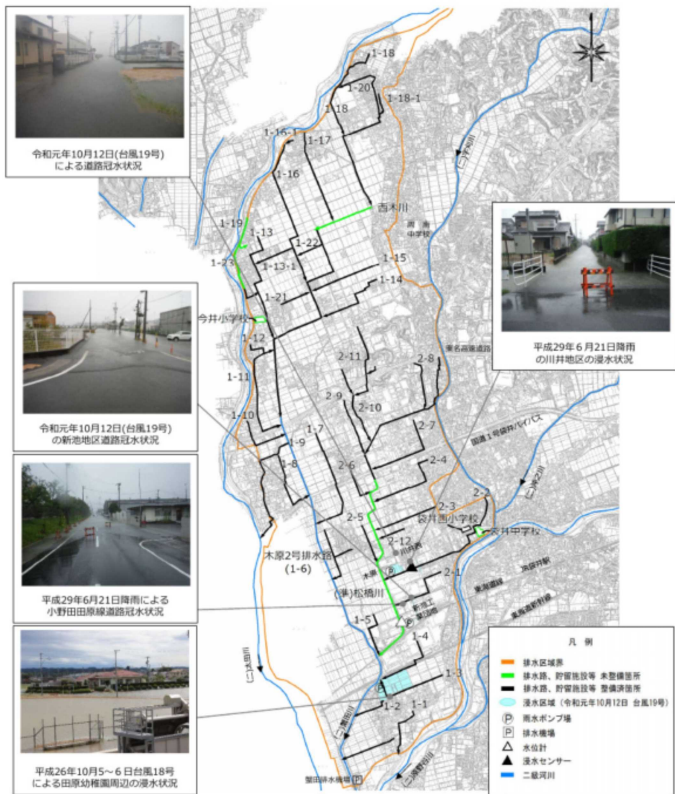
- 排水区の西側を流れる(二)蟹田川と排水区中央を流れる(準)松橋川に約40の排水路が流入しています。(準)松橋川は農業用排水路として整備されました。(二)蟹田川と(二)原野谷川との合流点から約1キロメートル上流には、農地保全の目的で蟹田排水機場（排水量28.0m³/秒）が整備されています。
- 平成16年11月11～12日の降雨により、甚大な被害を受けたことで、2-1の整備や新池工業団地、川井西地区、田原地区に内水排除のためのポンプ、雨水貯留施設として、袋井西小学校に校庭貯留施設を整備しました。
- 西木川、1-19、1-23、(準)松橋川は未整備です。

【浸水被害】

- 浸水被害が常態化している排水区であり、特に令和元年7月22日～23日の降雨では、(準)松橋川沿いの新池工業団地や川井西地区、木原地区において13戸の家屋浸水被害が発生しました。

課 題

- (二)蟹田川と(準)松橋川は流下能力が不足しており、降雨時に水位が上昇しやすく、これらの河川に流入する排水路から水が捌けないため、(二)蟹田川と(準)松橋川の流下能力の向上
 - ※(二)蟹田川は現在、県により河川改修を行っています。
- 土砂堆積などによる既存施設の流下能力の低下は、浸水被害を助長してしまう恐れがあることから、施設の能力を最大限生かすため既存の河川・排水路など排水施設の点検や維持修繕
- 今後の気候変動に伴う豪雨の激甚化・頻発化が予想されますが、河川・排水路の整備には時間を要するため、雨水貯留施設の整備による治水機能の強化や避難行動につながるソフト対策



今後10年間の整備計画

対策の種	項目	期間内整備延長(m) 期間内整備貯留容量(m³)	概算事業費 (百万円)	前期 (R4~R6)	中期 (R7~R10)	後期 (R11~R13)
水を流す	(準)松徳川の整備	940m	840	調査・工事	測量等・工事	測量等・工事
	河川・排水路の点検・維持修繕	—	—	点検・点検等		
水を貯める	校庭貯留施設整備 (森井中学校、今井小学校)	1,200m³	30	工事		
	雨水貯留施設の検討・整備	—	—	検討	整備	整備
水に備える	洪水ハザードマップの周知・活用	—	—	周知・活用	周知・活用	周知・活用

校庭貯留施設の整備

校庭に一時的に貯留できるよう外周に堀(周溝堀)を設け、少しずつ排水することで、下流河川や排水路への負担を軽減する貯留施設を森井中学校及び今井小学校の校庭に整備します。

●期間内整備貯留容量 740m³ (森井中学校) 460m³ (今井小学校)



(準)松徳川の整備

(準)松徳川を整備し、流下能力を高めます。

●期間内整備延長 L=940m





校庭貯留施設の検討・整備

治水機能を強化するため、排水区内の公共施設や水田などを利用して雨水の流出を抑制する雨水貯留施設を検討・整備します。



河川・排水路の点検・維持修繕

排水施設の機能が常に発揮できるように、河川・排水区内の堆積土砂の撤去や草木の除去など適切に維持修繕を行い、樋門やポンプなどの点検、更新を行います。

●延長、事業費等は今後の状況により変動します。

洪水ハザードマップの周知・活用

既存の洪水ハザードマップや今後作成する(森井中・小)河川(直轄管理河川)洪水ハザードマップを用いて浸水に関する情報を提供することで、大雨の際には慌てることがないように、いつ、どのような行動をとるのが良いのかを住民自ら考え命を守る避難行動に繋がります。

●	治水事業区
■	治水事業区(治水対策実施地域)
■	治水事業区(治水対策実施地域)
■	治水事業区(治水対策実施地域)
○	治水事業区(治水対策実施地域)
○	治水事業区(治水対策実施地域)
○	治水事業区(治水対策実施地域)
△	治水事業区(治水対策実施地域)
▲	治水事業区(治水対策実施地域)
—	治水事業区(治水対策実施地域)

<参考資料> 袋井市かわプログラム（令和4年度～令和13年度）施設整備事業 総括表

1 河川・排水路の整備

排水区	名称	延長 (m)	概算事業費 (百万円)	備考
秋田川排水区	秋田川幹線	200	270	
沖之川排水区	鷺巣川	50	20	県事業負担金
	(準) 油山川	580	220	
蟹田川排水区	(準) 松橋川	940	840	
田町排水区	田町幹線	750	220	
合計		2,520	1,570	

※ 検討箇所については未記載。延長、金額は今後の状況により変動します。

2 雨水貯留施設の整備

排水区	名称	容量 (m ³)	概算事業費 (百万円)	備考
沖之川排水区	久野城址南遊水池	15,000	5	県事業負担金
蟹田川排水区	袋井中学校（校庭貯留）	740	15	
	今井小学校（校庭貯留）	460	15	
井財天川排水区	浅羽中学校（校庭貯留）	660	10	
	浅羽北小学校（校庭貯留）	620	15	
	浅羽北多目的運動広場（公園貯留）	3,000	20	
	浅羽中央公園（公園貯留）	1,500	20	
合計		21,980	100	

※ 検討箇所については未記載。容量、金額は今後の状況により変動します。

3 雨水ポンプ場

排水区	名称	排水量 (m ³ /s)	概算事業費 (百万円)	備考
秋田川排水区	柳原雨水ポンプ場	13.0(19.5)	5,700	ポンプ2台(3台)
合計		13.0(19.5)	5,700	

※ 金額は今後の状況により変動します。

※ ポンプは3台整備しますが、整備計画期間では2台整備します。

4 局所改良・新たな治水対策

排水区	名称	概算事業費 (百万円)	備考
全域	局所改良・雨水貯留施設 ほか	220	
合計		220	

※ 金額は今後の状況により変動します。

5 事業費（年次計画）

(百万円)

項目	前期 (R4～R6)	中期 (R7～R10)	後期 (R11～R13)	合計
河川・排水路	400	590	580	1,570
雨水貯留施設	60	40	0	100
雨水ポンプ場	830	2,870	2,000	5,700
局所対策・新たな対策	30	70	120	220
合計	1,320	3,570	2,700	7,590

※ 金額は今後の状況により変動します。

※ 財源内訳は国・県費40%、起債45%、一般財源15%程度と試算しています。